

笑う門には 福来たる



(株)日本交通社
発行人 光田秀之
☎089-946-3911

一筋の道
右往左往せオ
自分へ道と
一筋に行こ
これがよりほかい
道はく、
筆三貴民

坂村真民記念館（砥部町）

あきらめない

イソップ寓話に、「二匹のカエル」という話があります。

二匹のカエルが、牛乳の入ったバケツに落ちてしまいました。一匹は「もう駄目だ」とあきらめて、何もせずにじっとしていたので、溺れて死んでしまいました。

もう一匹はあきらめずに、とにかく泳ぎ回り、出口を探して飛び上がっていました。すると、足元のミルクがかきまわされ、バターになつたのです。それに載り、無事に外へと飛び出すことができたという話です。

この寓話は、困難に直面した際の対応を教えてくれます。どんな状況にも、自分にできることははあるはずです。その時に、早々にあきらめてしまうか、できることを取り組むかで、その後の展開も大きく違ってきます。たとえ上手くいかなくとも、その経験を次に生かすことはできるのです。

何もせずにいるだけでは、活路はなかなか開けません。まずはできることから取り組むことが大切だといえるでしょう。その繰り返しから、思いがけない可能性が見えてくることもあるのです。

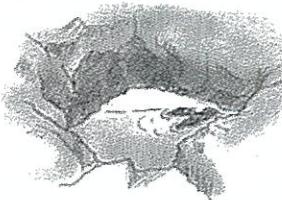
◆あきらめずに取り組みましょう

「職場の教養」より

明朗・愛和・喜歎

フーチャ (鹿児島県大島郡和泊町)

沖永良部島は、サンゴ礁の石灰岩が隆起した島。石灰岩が荒波に削られ、岩場に巨大な穴が開いたような奇勝が生まれた。1963(昭和38)年までは島内に同様の洞窟が4カ所あったが、吹き上がった塩水が及ぼす農作物への塩害には、島民は長年悩まされていました。そのため3つを除去し、被害の少ないフーチャのみが残された。フーチャとは琉球語で「吹き上げる」という意味、その名の通り、台風の際には高波の影響で70mの高さまで海水を天高く噴き上げる。



日本再発見!

白球を無心に追いし少年の
日焼けし顔に汗の光て

保親さんの人生万感

ベンチから子らに声援送りたる
パパ・ママたちの興奮やまづ

いつでも、どこでもチャンスはある
せっかくの機会を逃していないか。求めなければ得られない。
アンテナを張り巡らせチャンスをつかもう。

